

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
情報・技術ワーキンググループ(第6回)

意見

今度珠美

資料2-3について、時間の都合により会議当日に発言することのできなかった点に関して、次のとおり補足で意見を述べます。

【1】学校における AI 教育について次の 3 つの視点から提案します。

① AI 倫理の視点

資料にある「著作権」や「個人情報」の保護といったルール遵守に加え、AI が社会に及ぼす影響を主体的に考える倫理観が必要と考える。

公平性とバイアス・AI の出力には偏見が含まれる可能性があることを前提としそれを批判的に見極める態度。

人間の主体性・最終的な判断や責任は人間が負うべきで、AI に倫理的判断を委ねてはならないという原則。

② AI リテラシーの視点

操作スキルだけでなく、AI の中身(ブラックボックス)を推論するリテラシーへの転換。AI は正解を出しているのではなく「確率的に確からしい言葉」をつなげているに過ぎないという仕組みの理解。「もっともらしい嘘」をつく可能性があることを前提にファクトチェックを必須とする習慣。

③ デジタル・シティズンシップの視点

「偽・誤情報に騙されない」という防御から、AI という強力なテクノロジーを使って「どのようにより良い社会を作るか」という参画の視点へ。AI を活用して社会課題の解決策を提案したり、他者と協働して新たな価値を生み出したりする姿勢。AI 技術が社会に与える影響を踏まえ、適切なルールのあり方を議論・提言する市民としての態度。

【2】小・中・高校を通じた系統的な学習について、資料の「発達段階に応じた育成イメージ(案)」をベースに提案します。

小学校 「AI との出会いと道具ではないという区別」

- ・AI は「魔法」ではなく人間が作った「プログラム」であることを知る。
- ・AI と人間の「できることできないこと」の違いに気づく。

中学校 「仕組みの理解と批判的吟味」

- ・AI が学習データに基づいて予測、生成している仕組み(確率論)を理解。
- ・AI の出力に含まれる「バイアス(偏り)」や「ハルシネーション」を批判的に読み解く。「教科書」

と「生成 AI の回答」を比較し、AI の回答に含まれる誤りや偏見を特定する。なぜそのような偏りが生まれたのか。学習データの背景を推測する。SNS のアルゴリズムやフィルターバブルが、自分の意見形成にどう影響しているかを分析し、多様な情報に触れるための行動指針を自ら作成する。

高等学校 「責任ある使い手、作り手として」

- ・AI を活用して複雑な社会課題の解決策を検討し倫理的妥当性を評価する。
- ・AI 技術と共存するための社会的なルールや法制度について議論する。

生成 AI を活用して論文や作品を制作する際、どこまでが AI でどこからが自分の創作か(オリジナリティ)を明確に、そのプロセスを説明責任として果たす。

「学校での AI 利用ガイドライン」を生徒自身が策定。AI が人権や民主主義に与える影響について多角的に議論し、自分の意見を社会に発信する。